

2022年度

全国高校野球OBクラブ連合総会 議事録

日 時 2022年11月18日(金曜日) 13:00~16:00

場 所 ホテルヒューイット甲子園・鳴尾の間(1階)

<議 題>

- 1) 2021年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告  
資料1-1: 全国高校野球OBクラブ連合加盟校一覧  
資料1-2: マスターズ甲子園2021本大会プログラム  
資料1-3: マスターズ甲子園2021本大会リリース資料
- 2) 2021年度全国高校野球OBクラブ連合決算報告  
資料2-1: 全国高校野球OBクラブ連合2021年度決算報告  
資料2-2: マスターズ甲子園実行委員会2021年度決算報告
- 3) 2022年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告  
資料3-1: 全国高校野球OBクラブ連合加盟校一覧  
資料3-2: マスターズ甲子園2022本大会概要  
資料3-3: マスターズ甲子園2022本大会リリース資料
- 4) 2022年度全国高校野球OBクラブ連合途中決算報告  
資料4-1: 全国高校野球OBクラブ連合2021年度途中決算報告  
資料4-2: マスターズ甲子園実行委員会2022年度途中決算報告
- 5) マスターズ甲子園2023大会追加枠・ブロック枠  
資料5-1: 2021-2023シリーズ  
資料5-2: マスターズ甲子園2023追加枠募集結果  
資料5-3: マスターズ甲子園2023追加枠抽選方法  
資料5-4: マスターズ甲子園2023ブロック枠  
資料5-5: マスターズ甲子園2023ブロック枠募集結果
- 6) 2022年度全国高校野球OBクラブ連合事業案  
資料6-1: マスターズ甲子園2023本大会プログラム案  
資料6-2: 全国高校野球OBクラブ連合2023年度予算案  
資料6-3: マスターズ甲子園実行委員会2023年度予算案
- 7) マスターズ甲子園2024-2026シリーズ案  
資料7-1: マスターズ甲子園2024-2026シリーズ案
- 8) その他(報告事項)
- 9) マスターズ甲子園2023追加枠確定および組み合わせ抽選会

補足資料: マスターズ甲子園2022ガイドブック

○定刻より全国高校野球OBクラブ連合 長ヶ原 誠 理事長（以下、理事長と称す）の司会で、2022年度総会開催のあいさつを行い総会を開催した。

1、全国高校野球OBクラブ連合 高橋尤二顧問 挨拶。

今年度のマスターズ甲子園2022大会を素晴らしい大会にする為に皆様の協力をお願いします。又、来年度の2023大会は20周年記念大会ですので皆さんの力で成功させまじょうと陳べられた。

2、定足数の確認。

理事長より、加盟都道府県42、総会出席29、委任状受理9、総数38、との報告で、総会出席者29であるので、全国高校野球OBクラブ定款30条の総数の3分の1以上の出席があり、本総会は成立するとの報告があり承認された。

3、議長選出。

理事長より自薦・他薦により推薦を求めたが理事会一任との事で理事会より高山理事（関東ブロック、神奈川県）（以下、議長と称す）を議長として選出し承認された。

4、議題確認。

議長が席に着き議題の確認をして議事進行に入る。

○議 題

1. 議題1、2021年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告

○資料1-1、1-2、1-3を理事長より一括説明で、各都道府県の加盟校と活動に対する感謝の言葉があり、第18回大会も無事に終了したことの報告と18回大会のリリース資料の報告の中で102回大会世代の選手が10名参加した事の報告があり議長より報告事案との事で承認された。

2. 議題2、2021年度全国高校野球OBクラブ連合決算報告

○資料2-1：全国高校野球OBクラブ連合2021年度決算・監査報告

理事長より、収入合計6,480,000万円（新規加盟5万円・年会費643万円）、支出合計648万円（マスターズ甲子園2021大会補助費4,810,319円・総会関連費912,860円・事務局運営費211,000円・会議費486,430円）で、貯蓄費50,000円・予備費9,391円・支出総計6,480,000円との報告がされた。また、2021年度までの積立合計金額は2,955,676円と報告がされた。

○資料2-2：マスターズ甲子園実行委員会2021年度決算報告

理事長より、収入の部は途中決算報告時と同額の決算額となり20,154,919円、支出の部では、3.大会運営費の、スタッフ・ボランティア関連費・保険料については、スタッフ全員のPCR検査費や保険料が増加したが、ボランティア数の減少により応援団体交通費等の費用が2,762,362円とコスト削減することができた。5.の大会事務局費の支出も抑え、支出総額は予備費4,037円を合わせた20,154,919円と報告がされた。

監査報告に進み、監査役の北野賀大氏より帳票等を精査した結果、適正に処理されている事の報告がされ、質疑応答はなく拍手をもって承認された。

3. 議題3、2022年度全国高校野球OBクラブ連合事業報告

○資料3-1：全国高校野球OBクラブ連合加盟校一覧

○資料3-2：マスターズ甲子園2022本大会プログラム

○資料3-3：マスターズ甲子園2022本大会リリース資料

理事長より、資料3-1、3-2、3-3、の一括説明で、

資料3-1、では11月18日現在で43都道府県712校の加盟校で新たに京都府が新規加盟をした事の報告と全加盟校数も16校増加したとの説明と、今年度の予選大会は20リーグ（赤色）で実施され、コロナ禍で制限もあるなかで各地で予選大会開催や選抜チームの調整にご尽力をいただいた結果、19回大会を無事迎えることができたと説明された。

資料3-2では、明日の大会概要について、両日とも5試合開催されて20チームが出場し、秋（マスターズ甲子園）の初出場は浦和学院OB、熊本工OB、生野OBの3チームとなる。特に生野OBは、春、夏、OBを含めて、高校創設以来、初の甲子園出場となり、監督の関谷祐樹選手が選手宣誓を行うと説明された。

資料3-3では、リリースどおり、20チーム910名の選手が参加、最高齢は昨年引き続き奈良の御所実OBの高瀬寛さん（87）、最年少は18歳の5名で、102回世代の15名も今回出場する。甲子園デビューは734名、391名のボランティアスタッフで支えるとの説明があり、質疑応答はなく拍手をもって承認された。

4. 議題4、2022年度全国高校野球OBクラブ連合途中決算報告

○資料4-1：全国高校野球OBクラブ連合2022年度途中決算報告

○資料4-2：マスターズ甲子園実行委員会2022年度途中決算報告

理事長より資料4-1、4-2を一括して説明があり、

資料4-1では、収入は675万円（新規加盟16万円・年会費659万円）、支出はいずれの項目においても当初の予算額通りに執行されており、予備費として7,377円の見込みで貯蓄費と予備費を合計した、167,377円を2022年度の積立金とし、合計3,123,053円と報告された。

資料4-2では、収入の部3. キャッチボール参加料が、1日5試合を行うことになった関係で時間を縮小して160ペアの開催となり64万円で、5. 協賛金収入について、サントリーが40万円増加となった一方でパナソニックが撤退した結果、減収となっているが、7. の助成金収入が180万円を計上して現時点では収入22,076,966円と報告があり、支出の部においてはいずれの項



目も予算額から大きな増減はなく大会開催にかかる諸費用として執行できているとの説明があり、支出合計は、22,005,871円と予備費71,095円で、収入総額と同額との報告があり、質疑応答はなく拍手をもって承認された。

5. 議題5、マスターズ甲子園2023大会追加枠・ブロック枠

○資料5-1：2021-2023シリーズ

○資料5-2：マスターズ甲子園2023大会追加枠募集結果

○資料5-3：マスターズ甲子園2023大会追加枠抽選方法

○資料5-4：マスターズ甲子園2023ブロック枠

○資料5-5：マスターズ甲子園2023ブロック枠募集結果

理事長より、資料5-1～5-3の一括の説明があり、

資料5-1では、一昨年の大会が中止のために当初から1年ずらしての2021-2023シリーズとしている説明と総会の最後に2023年の追加枠（黄部分）の抽選を行うとの説明をされた。

資料5-2の説明は18リーグより申請があり、この中で新規リーグ（8チーム以上）は優先的に追加枠確定とするために高知県（13チームで申請あり）は確定となり、全体の13枠を17リーグによる抽選とする事が説明された。

抽選方法については、表2を参照して頂き加盟校数によって票数は異なり、また、高野連加盟校数を分母としたチーム数の割合6割超えると1票と加味される説明があり今回の抽選では該当の都道府県はないとの報告をした。

資料5-3では、高知県を除く17リーグを加盟校数の多い順から記載しており、後ほど各リーグの代表者から抽選を行って頂くとのせつめいをした。

以上の報告がされて資料5-3までの質疑応答はなく拍手をもって承認された。

資料5-4、資料5-5では、ブロック枠について第20回記念トーナメント大会を兼ねているが加盟校数が多くなっているなかで多くの予選大会を実施可能にして行きたいと模索をした結果。各都道府県予選大会の代表チームが甲子園に行ける、という従来の方法を維持しながら各都道府県間でリーグの交流を繋げて行き、新たにブロック大会によって優勝チームを決めて甲子園に行く。これによって3年に最低2回は各リーグが甲子園を目指すことが出来るようにした。当初、2022年から開始予定だったが、2020年が大会中止になった事で1年ずらして2023年にブロック大会がスタートする事となり同時に20回記念大会でもあるため、日本一を決定する全国トーナメント大会を兼ねて開催する事の説明と、今回のブロック大会をベースに各ブロックの優勝校がそのまま東日本、西日本大会へ進んで1～3位までを決定する。参加6チームが全て甲子園に出場出来るが、1位同士の決勝戦はOB日本一との位置づけでの試合とする事の説明があり。開催日程は、東日本大会は神奈川県保土ヶ谷球場で8月27日に開催予定、

西日本大会は9月2・3日に和歌山県宮紀三井寺野球場で開催予定との説明で、参加する都道府県チームは資料5-5を参照して頂き参加できなくなった、あるいは新規チームが追加されて参加が可能になった等があった場合は事務局にご連絡を頂きたいとの説明があり、合計637チームで、8チーム以下でもブロック枠での参加を可能にした理由は予選大会に参加することで、加盟校数の底上げ繋げて行きたい事の説明をして、質疑応答はなく拍手をもって承認された。

6. 議題6、2023年度全国高校野球OBクラブ連合事業案

○資料6-1：マスターズ甲子園2023本大会プログラム案

○資料6-2：全国高校野球OBクラブ連合2023年度予算案

○資料6-3：マスターズ甲子園実行委員会2023年度予算案

理事長より、資料6-1、6-2、6-3の一括説明で、

資料6-1では、2023本大会プログラム案として、日程は11月中の2日間での開催で雨天順延日も含めて3月上旬に甲子園球場からの最終決定後に速やかに各リーグにご連絡する。14枠の追加枠については抽選会にて組み合わせを決定して、2日目の6ブロック枠については各ブロック大会が終了後に甲子園出場チームが決定するが2日目のどこの試合になるのかは、東・西ブロック大会で1～3位が決まった時点で最終確定とする事の説明があり、又、2日目の第5試合終了後にトーナメント大会の表彰式を行うので大会2日目の甲子園キャッチボールは開催はしない事とする。ポストコロナということで制限なく本来のマスターズ甲子園が復活開催できることを祈りつつ今後は準備を進めて参りたいと説明があった。

資料6-2では、クラブ連合の予算案については2022年度予算案は昨年の総会でフルバージョンでの開催をする計画で承認済みなので、2022年をベースに20回大会の出場校などを加味しながら変更した予算案であり、収入の部は最低16校の加盟校を引き続き目指していくという事で16万円。年会費は659万円で合計675万円の計上。支出の部については2022年度の予算案通りにほぼ執行できる事と説明があり、支出総額は675万を計上。積立金は16校加盟を想定して3,283,053円を計上との説明があった。

資料6-3では、実行委員会の予算案については収入の部については2022年度予算案から大きな変更は、キャッチボールが初日のみの最大80ペアになる点で32万を計上。5. 協賛金収入について、2つ目のサントリーが140万となり40万増額。パナソニックが撤退した事により、新たな協賛社の加入を目指して活動して行くとの事で100万計上。新たに9. トーナメント大会開催のためにOBクラブ連合の積立金の3,283,053円を大会運営に充当する事で計上、収入合計25,383,053円、繰越金71,095円を加えて、収入総

額は25,454,148円。支出の部について、2022年度予算案とほぼ同額で、特別な支出項目として、5.2023年トーナメント大会関連費で、積立金充当分をそのまま3,283,053円を計上し、ブロック大会、東西大会等で使用する事として、今後は理事会、実行委員会で調整しながら予算範囲内の執行に努めたいと報告がされて、質疑応答はなく拍手をもって承認された。

#### 7. 議題7、マスターズ甲子園2024—26シリーズ(案)

##### ○資料7-1：マスターズ甲子園2024—2026シリーズ案

理事長より、資料7-1の説明で、ブロック枠を含めた3年シリーズの2回目として同じ仕組みで継続していきたい。資料の左から2024年(赤の申請枠)、2025年(青の追加枠)、2026年(黄色の追加枠)、ブロック枠8チーム以上の予選リーグは現段階では北海道から沖縄まで30リーグあり従来の抽選方法で来年も実施する事になれば、2024年大会は20チーム、2025年大会は半分の10チームの決定が予想される事で2023年9月22日までに8チーム以上の登録があった場合は優先枠として決定されると追加枠が少なる可能性がある事の説明と、その後、2025年(青)追加枠が確定し、3年目2026年(黄部分/2025年青確定を除く)の追加枠を決定していくとの説明と、最後に掲載しているブロック枠についてはトーナメントではなく6つのブロック大会で完了して各代表チームがそのまま甲子園に出場する事の説明があり、又、8校に満たないリーグでもブロック枠への出場が出来る機会があり、全体の底上げを担っていききたいとの説明がされた。2回目のシリーズも最低2回は甲子園を目指す機会を確保していくとの報告がされて、質疑応答に入り東京都の林様よりの質問があった。

##### ○質 疑

○東京都、林様より、ナイターで枠を増やす等の検討はしているのか、また、2026年大会は3年間の積立金を充てるのか、さらに10年後、30回目の開催計画はあるのかとの質問。

理事長より、

他の都道府県や関係者からも声は出ているがナイターが出来ればベストだが、甲子園球場の日程が取れない上に規定として冬場は9時～16時までとなっているが、これまでの大会実績と努力もあって甲子園球場としての配慮をして頂いて、8時～17時と特別に時間の延長をして頂いているのが現状ですので、これ以上増やすのは難しいためにこの案がベストとの説明と、積立金については3年間の積立金ではなく2012年から加盟費を積み立てているので今までの積立金を充当してブロック大会と東・西大会等に充てていく。さらに10年



後については今後の理事会で検討していくが、同様の可能性はあるとの説明をして了解を頂き、その他の質疑応答はなく拍手をもって承認された。

#### 8、議題8、その他（全体を通しての質疑応答）

○熊本県、前副理事長より報告・お願い。熊本県でOB連盟を脱退させてほしいという相談がある。理由は母校の現役が複数校の連合チームになってしまい若手が入ってこなくなりOBの試合もなかなか参加が出来ないためとの事で、この件は熊本県だけではなく全国で起こっている話であり、高校生は1学校10名を切ると連合という道しかなく連合になると半分は野球を辞めるのが現状との事で、野球を断念する生徒が増えてきているのが事実なので、このような事態の時こそマスターズ甲子園の開催意義が問われているのではと思うので、OBとして甲子園を目指せる現場があり野球を辞めないでほしいと後輩たちに指導をして頂きたい。OB連盟も含めて最優先課題になっているのが現状であり少子化や連合チームによる野球離れが事実であるが、現役がいかに野球を続けられるかとかそういうことを考えながら運営をしてほしい。野球を続けていけば、又、OBチームとして加盟していれば甲子園を目指せると伝えながら、野球人口を減らさないように寄与して頂きたい。とのお願いの話があった。

○埼玉県、神田様より、昨年に埼玉県選抜で出場した際に、ボランティアにボールが当たり怪我をした。グラウンドを背にトランシーバーで本部とのやり取りが多々見られたが、その際ファウルボールが頭に当たると事故につながるのでボランティアがヘルメット等を被り注意喚起を行っていくなど今後検討してほしい。

理事長より、

安全対策について、昨年ケガをされた方と事務局は継続的に連絡していて現在も病院へ通っているとのこと。今回の事故は主催者として真摯に受け止めている事案であり、グラウンドでは硬式だと怪我の確率も高くなるので同時に安全対策はレベルを上げてしっかり準備していく。グラウンドに入る人数をまず少なくしたい。ベンチ・記者席に入る関係者はヘルメットやレガースをつけさせるなど、実行委員会でマニュアルを作りボランティアに周知して臨む、との説明をして了解を頂いた。

○長野県、池口様より情報共有。我々も子供たちに野球を広めようという目的で参加した結果2年間で加盟校が日本で1番になった。高校野球OB・OGの子供たちの野球人口激減を何とかしたいという思いで、大人が18才に戻ってもう一度野球の魅力を味わって子供に広めようという活動をしている。ぜひそんなことを共有してもらいたい。その事で各OB会が活性化して甲子園に来て人生が変わった人が一生懸命活動をして頂いている。

もう1点は質問で、野球人口で男子が減って女子が増えているなかで女子野球を普及するために2つの高校が女子チームを作った。彼女らも全国のマスターズ甲子園に出てもらいたいが、規定上、全国高等学校野球連盟に加盟していないと出られないので是非検討をして頂きたい。女子の決勝戦が甲子園球場で開催されるようになって女子の野球人口が増えており、長野県では選抜チームを交互に出している。女子の硬式高校野球連盟出身の人も出られるようにしてもらいたい。

理事長より、

全国的に要望があり2年前から全国高等学校野球連盟とも女性選手の話はしている。理事会では共有し少しずつ動いているところであり、いろんな課題があるので1つ1つクリアにして行きたい。ユースを応援してこそそのマスターズなので存在意義はそこにある。女子マネージャーや選手だけではなく娘や息子を連れてきて未来の高校球児を育ててユースの応援もして行きたいと思っているとの説明をして了解をして頂いた。

以上で質疑応答はなく拍手をもって議案は承認された。

9. 議題9、マスターズ甲子園2023追加枠確定および組み合わせ抽選会

○マスターズ甲子園2023大会の組み合わせ抽選会を行い、下記の通り決定し承認された。

第1日目（土曜日）			第2日目（日曜日）		
第1試合	北海道代表	対 群馬県代表	第1試合	兵庫県代表	対 富山県代表
第2試合	香川県代表	対 東京都代表	第2試合	和歌山県代表	対 高知県代表
第3試合	神奈川県代表	対 秋田県代表	第3試合	ブロック枠	対 ブロック枠
第4試合	福島県代表	対 広島県代表	第4試合	ブロック枠	対 ブロック枠
第5試合	鳥取県代表	対 沖縄県代表	第5試合	ブロック枠	対 ブロック枠

以上を以って議案の審議が終了したので議長は全議案の承認を出席者に確認し終了を宣言し、戒能副会長の閉会の挨拶の後、15時07分に閉会した。

尚、議事の経過並びに結果を明らかにするために、議長である高山（神奈川県）が本議事録を作成し及び総会出席者の下記2名と計3名の署名押印をする。

2022年12月3日

議事録作成者

高山伸紀

(神奈川県)



2022年12月6日

議事録署名人

藤田 誠

(東京都)



2022年12月13日

議事録署名人

藤井 宏一

(奈良県)

